

平成30年度
花巻市行政評価委員会評価報告書

平成30年11月
花巻市行政評価委員会

平成30年度

花巻市行政評価委員会評価報告書

目次

1	委員長あいさつ	1
2	花巻市の行政評価の概要	
	・行政評価とは	2
	・行政評価の目的	3
	・花巻市まちづくり総合計画の構成（政策体系）と行政評価	3
	・行政評価の手法	4
	・市民参画による評価	4
3	花巻市行政評価委員会における評価の視点	5
4	花巻市行政評価委員会の評価対象の施策	6
5	花巻市行政評価委員会の評価スケジュール	7
6	平成30年度施策評価検証シート	
	・しごと部会	8
	・暮らし部会	14
	・人づくり・地域づくり部会	18
7	行政評価の改善に関する提言	22
参考資料		
	・花巻市行政評価委員会設置要綱	23
	・花巻市行政評価委員会委員名簿	24

1 委員長あいさつ

ここに「平成 30 年度花巻市行政評価委員会評価報告書」（以下、「本報告書」と呼ぶ。）をまとめることができました。ご多忙のところ貴重なお時間を割いて検証作業にご参加いただいた委員各位、ヒアリングにご協力いただいた担当課の方々、また円滑な運営にご尽力いただいた委員会事務局の皆さまに深く感謝申し上げます。

「行政評価」とは、行政が実施する政策、施策また事務事業を、成果指標等を用いて分析し、その有効性や効率性、必要性を行政が自ら評価することをいいます。いわば「行政の自己評価」です。その目的は、その評価結果を次の企画立案等に生かすことにより、行政活動の質的向上を目指すところにあります。花巻市では平成 19 年度からこの行政評価を導入しました。さらに平成 26 年度からは、10 年間で計画期間とする「花巻市まちづくり総合計画」が策定されたことを機に、施策を構成する事務事業の選択・重点化を重視した施策評価を中心とする評価システムが運用されています。

平成 23 年度に、この行政評価の客観性と透明性をさらに向上させ、その評価制度の充実を図るために「花巻市行政評価委員会」（以下「本委員会」と呼ぶ。）が設置されました。本委員会の主な活動は、花巻市が実施した内部評価の結果を外部の視点で評価すること、そして花巻市の行政評価の改善について必要に応じて提言等を行うことにあります。

今年度、本委員会では「しごと」、「暮らし」、「人づくり・地域づくり」の各部会において計 14 施策について施策評価の検証を実施いたしました。時間的な制約があるなか、各部会また全体会において委員各位には活発なご議論をいただきました。本報告書はこれをまとめ、その記録として残すものです。

本報告ならびに本委員会の活動が、ささやかながら、今後の花巻市の行政運営の質的向上を図る一助ともなれば幸いです。

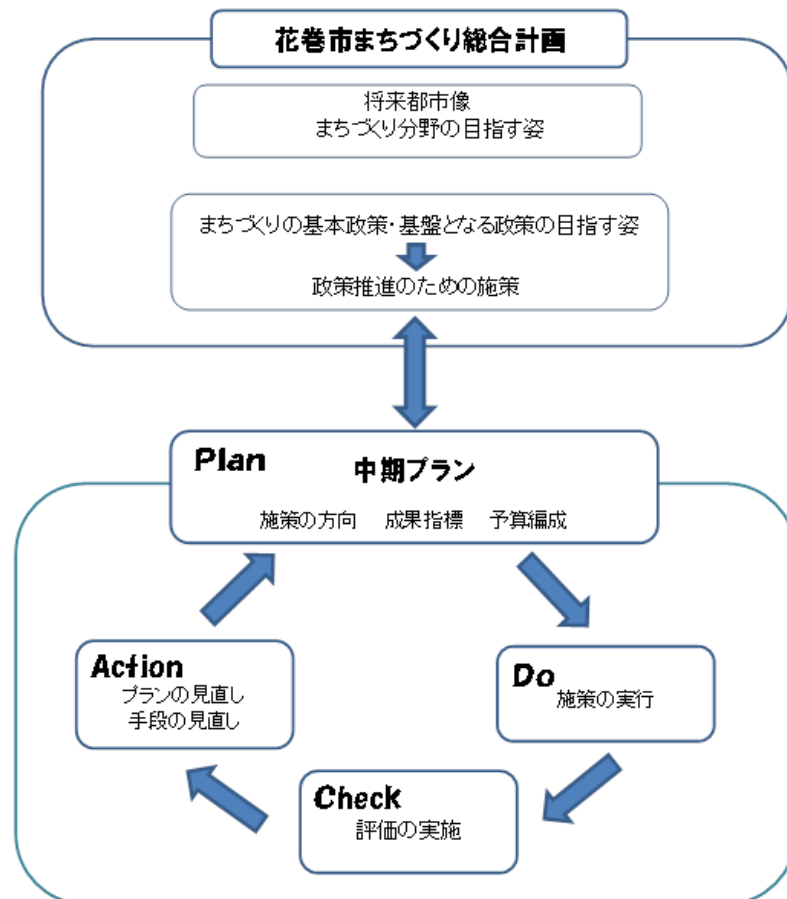
花巻市行政評価委員会 委員長 鈴木 健

2 花巻市の行政評価の概要

行政評価とは

行政評価とは、花巻市まちづくり総合計画における政策や施策、事務事業についてどのような成果があったかを客観的に評価し、その結果を次の施策等に反映させるためのものです。

具体的には、花巻市まちづくり総合計画の政策体系に沿って、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のサイクルにより、前年度の結果を振り返り、そこから改革や改善の方策を考えて、次年度の施策の方向や予算等に反映させます。



行政評価の目的

(1) 効果的・効率的な行政運営の推進

限られた行政資源（ヒト、モノ、カネ）を最大限活用し、事務事業の効率化、適正化を図るとともに、目的の達成状況等を評価して見直し・改善を行います。

(2) 市民への説明責任と行政情報の共有

評価結果をわかりやすいかたちで公表することで、市民に対する説明責任を果たすとともに、市政への共通認識を深め、市民と行政との協働の取組を進めます。

(3) 職員の政策形成能力の向上と意識改革

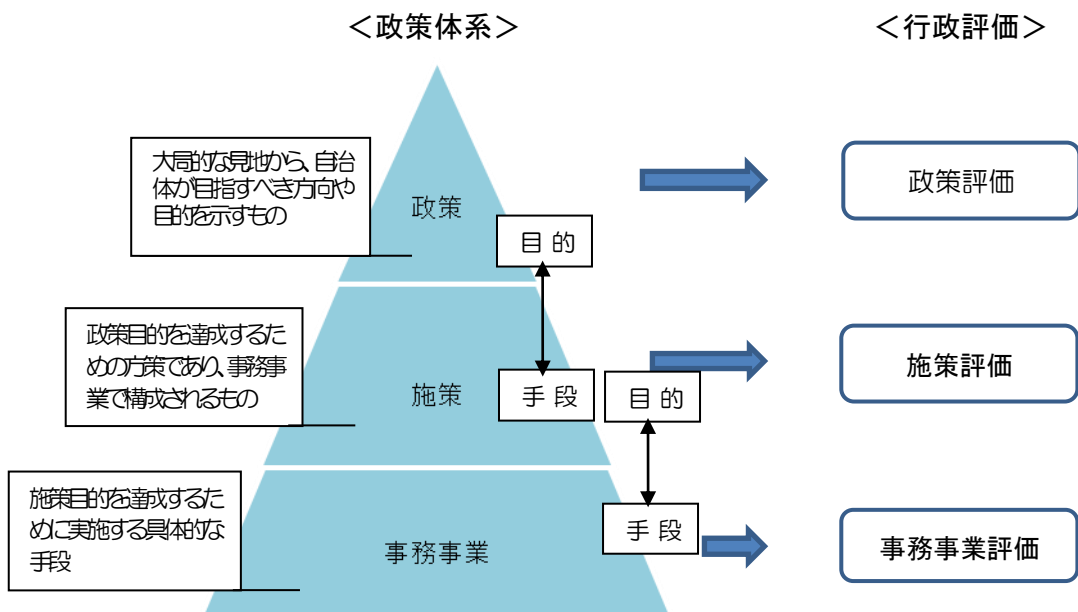
評価を通じ、目的・成果・コスト意識を持つことにより、職員の政策形成能力の向上や財源を効果的・効果的に活用する意識の徹底を図ります。

(4) 花巻市まちづくり総合計画の進行管理

花巻市まちづくり総合計画の各施策について、成果指標の達成状況の把握等により、その進行管理を行うとともに、施策目的達成のための事務事業の構成など、施策の方向性を検討し、次年度の重点施策の策定と予算編成への活用を図ります。

花巻市まちづくり総合計画の構成（政策体系）と行政評価

花巻市まちづくり総合計画は、花巻市の目指すべき将来都市像「市民パワーをひとつに歴史と文化で拓く 笑顔の花咲く温か都市 イーハトーブはなまき」を実現するため、5つのまちづくりの分野の目指す姿の下に、政策、施策、事務事業の3つの階層によって体系が構成されています。花巻市の行政評価は、この体系に基づいて実施しています。



行政評価の手法

花巻市では、平成26年度から10年間の計画期間とする花巻市まちづくり総合計画の策定を機に、従来の事務事業評価を中心とした評価から、施策を構成する事務事業の選択・重点化を重視した施策評価を中心とする評価システムを運用しています。

(1) 政策評価

市政の方向を示す政策や政策を構成する施策を大局的な視点でとらえ、政策の目指す姿を実現するための問題点や課題を総括します。【中期プランの最終年度に実施】

(2) 施策評価

政策目的を達成するための手段としての施策の有効性、また、施策を構成する事務事業が妥当かを評価します。評価の主な視点は以下のとおりです。

- 施策の目的と目標の確認
- 施策の現状と課題の認識
- 施策を構成する事務事業の貢献度等の検証

(3) 事務事業評価

成果指標の達成状況の検証を行うとともに、施策目的を達成するための手段である事務事業について、目的妥当性、有効性、効率性、公平性の視点で評価を行います。

市民参画による評価

花巻市による内部評価だけでなく、市民参画による客観的な評価により、わかりやすく透明性の高い行政運営を実現します。

その一端を担うのが、花巻市行政評価委員会による評価です。花巻市が実施した内部評価の結果について、外部の視点で評価するとともに、行政評価の改善について提言を行います。



第1回委員会



第2回委員会（暮らし部会）

3 花巻市行政評価委員会における評価の視点

花巻市では、花巻市まちづくり総合計画の策定を機に施策評価を中心とした行政評価システムを運用していることから、花巻市行政評価委員会においても、市が行った行政評価のうち施策評価を中心として検証、評価を行いました。

その際、花巻市が作成した「施策評価シート（平成 29 年度実績評価）」を以下の視点で検証、評価し、「施策評価検証シート」を作成しました。

- (1) 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。
 - ・「前年度評価時の今後の方向性」に記載された内容について、実施または実施に向けた取組がなされているか。また、実施できない場合などは、「反映状況」においてその原因や代替策などが示されているか。
- (2) 「5 施策を構成する事務事業」の検証が的確に行われているか。
 - ・「4 施策を構成する事務事業一覧」の「直結度」や「成果」などを踏まえた内容となっているか。
 - ・市民ニーズや市の関与の必要性の変化、費用対効果や成果の向上余地の有無を把握したうえで、成果の向上を図る事業、新たに取り組むべき事業などを明らかにしているか。
- (3) 「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」の分析が的確に行われているか。
 - ・成果指標の実績値の増減理由等が示されているか。
 - ・分析において、根拠不足や認識の違いなどはないか。
 - ・施策の成果の向上につながる分析がなされているか。
- (4) 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。
 - ・「◎前年度の評価の振り返り」、「3 成果指標の達成状況」、「5 施策を構成する事務事業の検証」等を踏まえて、「施策の目指す姿」の達成につながる分析がなされているか。
 - ・「(課題)」において、これから市がなすべき方向性が示されているか。
 - ・「(今後の方向性)」は、「(課題)」に対応して、今後重点的に取り組む事務事業などが具体的に記載されているか。
- (5) シート記載内容全般について
 - ・施策評価に必要な事項がわかりやすく記載されているか。

4 花巻市行政評価委員会の評価対象施策

花巻市まちづくり総合計画では、将来都市像と5つのまちづくり分野の「目指す姿」を掲げ、その「目指す姿」の実現のために実施する21の政策と72の施策を示しています。

花巻市行政評価委員会での評価に当たり、「しごと」、「暮らし」、「人づくり・地域づくり」の3部会を設置して、各部会において評価対象施策を決定し、計14施策の評価を実施しました。

政策No.・政策名	施策No.・施策名	部会
1-1 農林業の振興	1 農業生産の支援	しごと
	2 担い手の育成	
	3 生産基盤の整備	
1-5 農工商観連携の推進	1 起業の推進	しごと
	2 特産品の開発	
	3 企業誘致の推進	
2-3 防災危機管理体制の充実	1 危機管理体制の強化	暮らし
	2 自然災害対策の強化	
2-5 福祉の充実	1 地域福祉の推進	暮らし
	2 高齢者福祉の充実	
3-2 学校教育の充実	1 学力・体力の向上	人づくり・地域づくり
	3 特別支援体制の充実	
4-1 地域主体のまちづくり	1 地域づくりへの参加促進	人づくり・地域づくり
	2 コミュニティ会議の基盤強化	



第3回委員会（人づくり・地域づくり部会）



第4回委員会（しごと部会）

5 花巻市行政評価委員会の評価スケジュール

回	日時	会議	内容	会場
第1回	9月11日	全体会	<ul style="list-style-type: none"> 花巻市行政評価委員会の役割や評価の進め方等の説明 部会設置 評価対象施策選定 日程調整 	花巻市役所本庁舎
第2回 ～ 第5回	9月19日	人づくり・地域づくり部会	<ul style="list-style-type: none"> 施策担当課へのヒアリング ↓ 花巻市が作成した「施策評価シート（平成29年度実績評価）」の検証、評価 ↓ 「施策評価検証シート」の作成 	花巻市役所本庁舎、まなび学園
	9月20日	しごと部会 暮らし部会		
	9月28日	しごと部会		
	10月2日	暮らし部会		
	10月3日	人づくり・地域づくり部会		
	10月5日	しごと部会		
	10月12日	暮らし部会 人づくり・地域づくり部会		
	10月15日	暮らし部会		
10月19日	しごと部会 人づくり・地域づくり部会			
第6回	11月9日	全体会	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果の決定 行政評価の改善に関する提言 	まなび学園



第5回委員会（暮らし部会）



第6回委員会

			部会名	しごと部会
施策No.	1-1-1	施策名	農業生産の支援	施策主管課 農政課
施策の目指す姿		収益性の高い農畜産物を生産しています		
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について				
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。 機能している。なお、労働力確保以外の課題、例えば園芸作物のブランド化などの課題にも言及して あれば良い。</p>				
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 成果Cの事務事業についての要因分析がなされていなかった。成果「ー」の事務事業については説明 がなされていた。成果B、Cになっている事務事業で、目標値の設定そのものに問題がある事務事業が あり、改善を求める。</p>				
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 主食用米の作付推進の要因について、ヒアリングでは説明があったので、シートにも記入すべきであ る。</p>				
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 振興作物の対象が広範にわたるので、どの作物に重点を置いているのかが明示されていると、良い。</p>				
<p>●シート記載内容全般について 前年度評価の振り返りの項目内の(前年度評価時の今後の方向性)、(反映状況)というタイトル名が分 かりづらい。事務事業の施策への貢献度の項目内の直結度にかかわる対象と意図が分かりづらい。</p>				

		部会名		しごと部会	
施策No.	1-5-1	施策名	起業の推進	施策主管課	商工労政課
施策の目指す姿		多様な分野で起業や新事業展開を活発に行っています			
<p>■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について</p> <p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。 機能している。</p> <p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 的確に行われている。</p> <p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 的確に行われている。ただし、達成度の評価に関しては、数値目標にのみ依存する成果指標だけの評価では不十分である。数値化しえない活動を加味しながら達成度を評価する仕組みを考えてはどうか、という意見が出た。</p> <p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 行われている。ただし、様々な活動を含む企業コーディネート機能を強化とした場合に、どの活動を強化するのか、ということが理解しづらい、という意見があった。</p> <p>●シート記載内容全般について 専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。</p>					

		部会名		しごと部会	
施策No.	1-5-3	施策名	企業誘致の推進	施策主管課	商工労政課
施策の目指す姿	多様な分野の多くの企業が立地しています				
<p>■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について</p> <p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。 機能している。</p> <p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 的確に行われている。ヒアリングの際に、事務事業の一部の成果の修正が行われた。なお、新たに取り組むべき事業に関連して、人手不足が指摘されているが、具体的にどのような能力を持つ人が不足しているのかを明確にすると一層よい。</p> <p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 的確に行われている。</p> <p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 的確に行われている。ただし、施策1-6-1職業人材の育成などで取り組んでいることや、他部門と連携することなどを記載すべきである。</p> <p>●シート記載内容全般について 専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。</p>					

			部会名	しごと部会
施策No.	1-1-2	施策名	担い手の育成	施策主管課 農政課
施策の目指す姿	農業の担い手が育っています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について				
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。機能している。</p>				
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 的確に行われている。なお、担い手の育成のためにも、農業の新しい魅力を発信する事業や中山間地域については長期的な視点からの事業が必要ではないか、という意見があった。</p>				
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 的確に行われている。ただし、成果指標の目標値の設定については再検討が必要ではないか。例えば、集落営農組織の法人化率目標値100%は無理な設定である。</p>				
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 短期的な課題や方向性については、的確に行われている。農業を取り巻く内外の状況を考えると、長期的視点での課題や方向性を示すことも必要である。</p>				
<p>●シート記載内容全般について 専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。</p>				

		部会名		しごと部会	
施策No.	1-1-3	施策名	生産基盤の整備	施策主管課	農村林務課
施策の目指す姿	農業の生産性や作業効率が向上しています				
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。 機能している。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 的確に行われている。新たに取り組むべき事業として、中山間地域対策が必要である。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 的確に行われている。法人化政策の成果である。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 的確に行われている。</p>					
<p>●シート記載内容全般について 専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。事業の実施主体と事業の対象者が分かりづらい。</p>					

平成30年度 施策評価検証シート

評価年月日 平成30年10月19日

				部会名	しごと部会
施策No.	1-5-2	施策名	特産品の開発	施策主管課	定住推進課
施策の目指す姿	地場産品を活用し、付加価値の高い多くの商品を開発しています				
<p>■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について</p> <p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。 機能している。</p> <p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 的確に行われているが、新たに取り組むべき事業として、市場ニーズ把握などの市場調査事業、具体的な農産物を選定するターゲット選択事業、さらにはこの施策を市民に周知する事業を付加すべきとの意見があった。</p> <p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 成果指標の見直しが必要である。数値目標のみでの評価に依存すると「D」評価になってしまう。この評価は、様々な商品開発が行われ一定の成果が積み上げられていることを知る市民感情とギャップがありすぎる。総じて評価が辛すぎる。</p> <p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 ワインに偏っているように見える。今後の方向性については、商工観の具体的な連携についても触れてほしい。</p> <p>●シート記載内容全般について (特になし)</p>					

			部会名	暮らし部会	
施策No.	2-3-1	施策名	危機管理体制の強化	施策主管課	防災危機管理課
施策の目指す姿	様々な危機に迅速に対応しています				
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 見直しのための取り組みはなされているが、不十分である。具体的には、「地区役員の高齢化」については自主防災組織未結成地域だけの問題ではないし、区長だけをターゲットに意識醸成を図る手法は効果的でない。また、FM難聴地域への対策については、「何を」検討するのか具体的な対策を示す必要がある。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 貢献度や成果がC判定である事業について、「市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業・・・施策への貢献度の低い事業はないか」の欄において、「なし」とする根拠を明確にする必要がある。C判定である理由を整理して対象者に誤解を与えないような表現で説明すべきである。 「施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか」に記載の「自主防災アドバイザー制度」だけでは、自主防災組織未結成地域への対策として不十分である。行政からの働きかけと「自主防災アドバイザー制度」の2段構えとする必要がある。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 文章表現がわかりにくい部分がある。例えば、自主防災組織の結成が必要な理由から説明し、自主防災組織を結成した後も組織ではどういった問題を抱えているのか、その問題をどのように解決していくかなどを分析することが望ましい。 さらに、因果関係がはっきりした表現とする必要がある。自主防災組織の結成割合については、市の啓発活動により意識が醸成され成果が上がったということであるが、それが伝わらない。成果が上がった理由が明確になれば、自主防災組織未結成地域への対策にもつながる可能性がある。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 市の立場を明確にした上で方向性を示すこと。具体的には、個別計画の取り組みを「お願いする」のではなく、市がなすべきこととして「図っていく」など市のスタンスがわかるような表現とする必要がある。</p>					
<p>●シート記載内容全般について 施策評価シートだけでは理解できず、施策主管課長の説明を聞かないとわからない点があった。市が実施した講演会などについては「誰に」、「何を」、「何回」など具体的に記載するとイメージしやすい。</p>					

			部会名	暮らし部会	
施策No.	2-3-2	施策名	自然災害対策の強化	施策主管課	防災危機管理課
施策の目指す姿		水害や土砂災害から守られています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 情報提供に関することは機能しているが、「現状と課題」に書かれた内容を網羅していない。成果指標の目標達成のためには情報提供が重視されるが、実際にそれ以外にも多くのことに取り組んでいることから、「現状と課題」を踏まえて何らかの記載が必要である。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 「市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業・・・」について、「なし」であることは事務事業の「直結度」や「成果」から理解できるが、「なし」とした理由を記述した方がわかりやすい。 「さらに成果の向上を図る事業」や「新たに取り組むべき事業」として、防災情報を知ってもらうために、地域単位で防災訓練を実施する機会をつくる必要であり、同時にFMはなまきを聴いてもらえる工夫も必要である。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 成果指標が2つともアンケート調査結果であるが、客観的な指標を設定した方がよい。現状では実績値の増減理由の分析ができないし、施策の目指す姿の達成のために何をすべきかを考えられない。 成果指標「水や食料、備品等を備蓄している市民の割合」について、アンケートの設問に「備蓄」の定義を明記すべきである。人によって設問の捉え方が異なり、例えば、災害用持ち出し袋があるかないかで「備蓄していない」と判断する人がいる可能性もある。ハザードマップの裏面に記載されている「食料3日分、水9ℓ」などを設問に示すことで改善することができる。 「ハザードマップに『備蓄』の定義を明記した。今後普及を図っていく」などと記載して今後の方針につなげるとわかりやすいのではないか。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 急傾斜地崩壊対策事業については、県に依存している印象であり、市としてどう取り組むのかが見えない。市内の急傾斜地崩壊危険箇所が200か所以上もあり、すぐに対応できないのであれば、説明会の開催など市がなすべき方向性を示す必要がある。</p>					
<p>●シート記載内容全般について 「現状と課題」などにおいて、具体的に記載するとわかりやすく、市民に安心感を与えられる。例えば、未改修箇所については「○か所」、「見直されています」についてはどのように見直されているか、「県に要望している」についてはその後どうなったかなどを記載する。 なお、平成28年度から平成29年度にかけて成果指標の目標値を見直した経緯について、シート内に説明があった方がよい。</p>					

			部会名	暮らし部会	
施策No.	2-5-1	施策名	地域福祉の推進	施策主管課	地域福祉課
施策の目指す姿	地域の住民が共に助け合って生活しています				
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 平成29年度に実施した民生委員へのアンケート調査に関する分析は平成30年度に持ち越しているが、概要だけでも分析しておけば課題が明らかになったのではないかと。分析の結果、例えば、「現役世代への相談機関の周知方法」についても、困りごとへの対処なのか、困る前の予防なのか、どこに重点を置いて相談窓口をつくれれば良いのかが具体的に見えてくるのではないかと。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 ほかの施策でも同様のことがあったが、「新たにに取り組むべき事業」等の項目を「なし」とする理由について記載されていればわかりやすい。ただし、本施策の場合、民生委員へのアンケート結果の分析を踏まえた新たな課題を「新たにに取り組むべき事業」として挙げるべきである。 評価は行われているが、具体的な取組が書かれていない。事務事業評価シートにおいても同じである。例えば、情報発信について、「引き続き検討する」だけではなく、相談窓口を知らない人へどうやって発信していくのかまで掘り下げて記載するべきである。 成果指標「悩みや問題を抱えたときに相談できる場所を知っている市民の割合」に使っているアンケートの設問について、相談窓口を知っていると答えた人に対し、「どういう方法で知りましたか？」と掘り下げれば、具体策が出てきて次のステップに進めるのではないかと。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 成果指標がアンケート結果だけでは不十分である。また、アンケートの設問についても、上記のように再検討が必要である。 さらに、現状では、アンケート結果の分析のみで背景・要因の記載がない。これまでの取組を含めて記載すればわかりやすいし、民生委員へのアンケート結果の概要を入れて違う角度から分析する手法もある。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 「課題」に「相談件数については伸びが見られない」と記載されているが、相談した人の満足度や改善度が成果であり、相談件数の多寡では測ることができないのではないかと。 さらに、「連携」という言葉が出てくるが、具体的にどのように改善するのが記載されていない。現状を整理すれば、地域のつながりについての課題、個人情報管理に関する課題などがあるはずであり、その取扱いの検討や条例の整理などはまさに行政の役割である。</p>					
<p>●シート記載内容全般について (特になし)</p>					

			部会名	暮らし部会	
施策No.	2-5-2	施策名	高齢者福祉の充実	施策主管課	長寿福祉課
施策の目指す姿	高齢者が元気で生きがいを持ち、安心した生活を送っています				
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 十分に機能しているとは言えない。例えば、「支援を行った」結果「どうなったのか」までであるとわかりやすい。また、本施策の範囲が広いため、行政がなすべきことを見極めることができず、課題が明らかになっていない印象を受ける。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 「①市民ニーズや市の関与の必要性・・・」の欄に老人クラブについて記載されているが、成果「C」であることについて、どう改善するのかまで記載する必要がある。 「新たに取り組むべき事業・・・」の欄に「介護サービス事業所での人手不足解消を図るために介護人材確保事業が必要」とあるが、根拠の記載がない。人手不足は全国的、一般論的なことであり、花巻市の現状として、「必要数〇人のところ〇%充足している」など具体的な記載があるとわかりやすい。必要に応じて、事業所へのアンケート結果などでもよい。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 成果指標「生きがいを持って暮らしている高齢者の割合」について、背景・要因の分析が不足している。本施策の事務事業だけで高齢者の「生きがい」を判断することは困難であり、生涯学習分野など本施策以外の要素を勘案した分析も必要である。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 介護サービス事業所での人材不足の解消については、支援内容を分かりやすく記載する必要がある。例えば、「奨学金返還者への支援」については、どういう人が対象となるかなどを記載しないと誤解される可能性がある。 さらに、定着率の向上に関する対策も必要である。</p>					
<p>●シート記載内容全般について 使われている言葉がわかりにくい。例えば、「在宅医療介護連携推進会議」は誰がどのような対応をするのか、「顔の見える関係づくり」とは具体的にどういったことなのかなど、わかりやすい表現になると良い。 似たような事務事業名で区別しづらいため、副題を付けるなどして事業内容をイメージすることができるようにはどうか。</p>					

			部会名		人づくり・地域づくり部会
施策No.	3-2-3	施策名	特別支援体制の充実	施策主管課	学校教育課
施策の目指す姿		すべての児童生徒が、毎日いきいきと学校生活を送っています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 以下の2点について、「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているかどうか不明確である。 ・(反映状況)の1つ目にある「ケース会議を実施した」の記述は、実施の回数・頻度や主な内容(たとえば、担当者間での情報共有や、関係機関との連携の内容など)といった、会議開催の具体的な実績がわからないので明記するべきである。 ・(反映状況)の2つ目にある「説明会を設定し、100%達成した」の記述は、読点の前後のつながりが不明確であり、説明会を設定した結果として「個別の教育支援計画」の作成割合が100%になったことがわかるように記載するべきである。この部分は、たとえば「各校の担当者向けの説明会を設定した。その結果、障がいのある児童生徒全員について『個別の支援計画』が作成され、作成している学校の割合が100%となった」としてはどうか。</p>					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 (施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)の内容について、以下の2点が的確ではない。 ・ふれあい共有推進員の「資質向上を図る研修」は、具体的にどのような資質の向上を図るのかを明記するべきである。 ・「学校のニーズ」に対して、支援員配置を今後どのように「充実する必要がある」のか、ニーズに対する支援員配置の過不足の状況などについて具体的な根拠を付して記載するべきである(「充実」については、たとえば人員を増やさずに資質向上を図る方向性もあれば、人員の増加と資質向上の両方を充実させる方向性も有り得る)。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 「個別の教育支援計画作成の割合」の分析は、障がいのある児童生徒全員の「個別の教育支援計画」が作成され、その結果として全小中学校において障がいのある児童生徒の状況を把握可能になったことが読み取れるように記載するべきである。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 以下の5点が的確ではない。 ・(課題)の1つ目にある「資質」や「連携」の具体的な内容を明記するべきである。 ・(課題)の2つ目にある「作成割合が100%となった」という記述は、課題を提示していない。作成割合100%を実現した上で、どのような課題があるのか具体的に記載するべきである。 ・(今後の方向性)の2つ目の内容は、(課題)の2つ目に対応していると考えられるが、課題の内容が不明であるため、今後の方向性の内容が妥当なものなのか判断できない。また「周知徹底する研修・伝達の機会を設定する」の記述は意味が理解できない。 ・(課題)の3つ目にある「充実を図る」は、繰り返しになるが、ニーズの高まりに対して支援員配置をどのように充実させるのか、ニーズに対する過不足の状況などについて具体的な根拠を付して記載するべきである。 ・(今後の方向性)の3つ目にある「充実」や「適切な学校配置」の記述は、それらの具体的な内容を、学校のニーズに対する過不足の状況などの具体的な根拠を付して記載するべきである。</p>					
<p>●シート記載内容全般について ・会議や計画作成などの活動は、「実施した」「作成した」などの事実の記載ではなく、それらの回数・頻度・内容などの実績が具体的にわかるように記載するべきである。 ・「ニーズの高まりに対して体制の充実を図る」場合、ニーズや現状の体制などについての根拠を出来る限り(量的な数値などの形で)具体的に明示するべきである。 ・本施策評価シートにある「LD」や「ADHD」などのような専門用語は、一般の市民でもその概要が理解できるように説明を付けるべきである。</p>					

			部会名	人づくり・地域づくり部会	
施策No.	4-1-2	施策名	コミュニティ会議の基盤強化	施策主管課	地域づくり課
施策の目指す姿	コミュニティ会議を中心に、自主的な地域づくり活動を行っています				
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。 (前年度評価時の今後の方向性)について、3項目のいずれも、複数年度にまたがって取り組まなければ実現不可能と思われる内容を記載しており、翌年の再評価を前提としたものになっていない。評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載するべきである。また、(反映状況)の記載内容について、以下の3点の記載に不明確な点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(反映状況)の1つ目について、3地区でのワークショップ開催の結果を「コミュニティ会議と市との協議の場」で共有したことが、「対話」を取り入れる仕組みの構築においてどのような意義を持つのか説明がなされていない。共有したことで、仕組みの構築がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 ・(反映状況)の2つ目について、「地域づくり講演会を開催」したことが、より一層の地域づくりの推進を図る上でどのような意義を持つのか説明がなされていない。講演会の開催によって、一層の地域づくりの推進がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 ・(反映状況)の3つ目について、地域づくり交付金のあり方の協議や検討の継続が、より良い地域づくりの仕組みの構築においてどのような意義を持つのか説明がなされていない。協議や検討の継続により、より良い地域づくりの仕組みの構築がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(新たに取り組むべき事業はないか)の2つ目について、「地域自治に関する総合的な懇談会の開催」の具体的な内容が分からないので明記するべきである。 ・地域の各層(部会の質疑によれば、特に若者)の参加の増加が課題であるにもかかわらず、この課題に対応する事務事業がどれなのか明確ではないので分かるような説明をするべきである。 					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。 施策としての達成度は「A」であるにもかかわらず、構成する事務事業の成果がいずれも「B」である。更なる施策の成果の向上に向けて、各事務事業のB評価のA評価への向上を図るための分析が必要である。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(今後の方向性)については、1つ目の(ワークショップ等の「対話」を取り入れた仕組みの構築)という内容が、前年度評価時の今後の方向性と同じである。また、3つ目の(地域づくり交付金のあり方の協議継続)と、4つ目の(より良い地域づくりの仕組みの検討)は、文面を読む限り、前年度評価時の今後の方向性から内容が後退している。施策の達成度(A評価)に対し、文面の記載内容が釣り合っていない。 ・(課題)の3つ目については、交付金のあり方の検討がなぜ必要なのか、背景にある問題点の説明がなされていないため明記が必要である。 					
<p>●シート記載内容全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価の振り返りの欄の(反映状況)の内容は、それが今後の方向性に記載された目標の実現にどの程度つながるものなのかが分かるように記載するべきである。 ・評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載するべきである。ただし、今後の方向性として、実現に複数年を要する目標を設定せざるを得ない場合は、目標の実現に向けた複数年にまたがる道筋を、行程表などで分かりやすく示すべきである。実現に複数年を要する目標を、実現への道筋を示さずに複数年続けて同じ文言を用いて(今後の方向性)に記載し続けることは、市民に対して課題解決の取組が進歩していないとの印象を与える。 					

			部会名		人づくり・地域づくり部会
施策No.	3-2-1	施策名	学力・体力の向上	施策主管課	学校教育課
施策の目指す姿		児童生徒の学力・体力が向上しています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(前年度評価時の今後の方向性)の1つ目の②にある「家庭学習の重要性や部活動の適正化等の家庭や地域への働きかけ」について、その後どのような取組が行われたのかが不明であるため、(反映状況)に取組の内容を記載するべきである。 ・(反映状況)の2つ目について、「検定試験受験の補助を検討する」という方向性との整合性を考慮すれば、「検討の結果、補助事業の実施が決定し、事業開始後の周知を通じて、検定試験の受験率が高まった」ことが読み取れるように記載するべきである。 ・(反映状況)の3つ目について、平成29年度末時点の状況を記載するのであれば、「新たに」の語は削除するべきである。 					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p> <p>(新たに取組むべき事業はないか)について、以下の2点を指摘する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業サポーターや中学校サポーター配置について、なぜ「継続はもちろんのこと、可能であれば増員も検討したい」のか、背景や理由が文面を読む限りでは不明であるため記載するべきである。 ・食生活や生活習慣の変化による肥満傾向の児童生徒の増加傾向を踏まえれば、体力向上の取組は、小中学校の連携だけではなく、幼稚園や保育園を含めた、幼保小中連携による取組も必要ではないか。 					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p> <p>体力・運動能力調査の達成状況について、なぜこのような調査結果になったのか背景の分析が行われていないので記載するべきである。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(課題)の2つ目には、事業実践校指定の成果の総括を踏まえた、基礎体力向上のための課題を記載するべきである。 ・(今後の方向性)の2つ目には、事業実践校の新規指定が全市の基礎体力向上とどのようにつながるのか明記するべきである。 					
<p>●シート記載内容全般について</p> <p>「このような結果になったのはなぜか(例:体力・運動能力調査の分析)」「この取組が必要なのはなぜか(例:授業サポーター・中学校サポーターの増員検討)」「この取組を行う意義は何か(例:実践校指定と全市的な基礎体力向上とのつながり)」を記載する際の背景や経緯の説明が、全体的に不十分である。</p>					

			部会名		人づくり・地域づくり部会
施策No.	4-1-1	施策名	地域づくりへの参加促進	施策主管課	地域づくり課
施策の目指す姿		老若男女多くの住民が地域づくりに参加しています			
■ 施策評価シート(平成29年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(前年度評価時の今後の方向性)には、いつ実現できるか分からない目標ではなく、次の評価までの間に取り組むべき具体的な目標を記載するべきである。また、その内容は、各施策の間の相互の関係を適切に踏まえたものとするべきである(5つ目に記載されている「振興センターの利用人数を増やすためにも、人口減少に歯止めをかけることは不可欠」との記載は適切ではない)。 ・(反映状況)の記載内容のうち、1つ目の「ファシリテーション研修会を開催した」、3つ目の「イベント等の周知を12回行った」、4つ目の「市民ライター養成講座を5回実施した」については、それらが前年度評価時の今後の方向性で示された目標の実現にどの程度つながったのか、具体例を入れながら説明をするべきである。 					
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はなまき婚シェルジュ事業の事業検証の必要性の記述については、市民ニーズの低下を実際に把握する段階に至っていないため、この欄への記載は不要である。 ・(新たにに取り組むべき事業はないか)の欄に記載されている振興センターの改修については、その取組が「公共施設管理計画」との整合性を踏まえたものであることを明記するべきである。 					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p> <p>振興センターの利用人数については、利用人数が増加しているセンターがある中で、全体的には長期的に減少していることの原因や背景を分析するべきである。</p>					
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p> <p>(課題)と(今後の方向性)の両方に、利用人数が減少し、達成度もCである「振興センターの利用」に関する内容を記載するべきである。</p>					
<p>●シート記載内容全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価の振り返りの欄の(反映状況)の内容は、それが方向性に記載された目標の実現にどの程度つながるものなのかが分かるように記載するべきである。 ・評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載するべきである。ただし、今後の方向性として、実現に複数年を要する目標を設定せざるを得ない場合は、目標の実現に向けた複数年にまたがる道筋を、行程表などで分かりやすく示すべきである。 					

7 行政評価の改善に関する提言

- 花巻市行政評価委員会の充実のため、委員会に出席できる方を委員に選任すべきである。
また、多くの委員が出席できるような時間帯を設定するなど委員会の日程調整の工夫が必要である。

- 中長期的な視点が必要な施策の評価に当たっては、各年度の具体的な取組を明らかにした「行程表」のような資料があれば、毎年度の評価を適切に実施することができる。

花巻市行政評価委員会設置要綱 (平成23年花巻市告示第273号)

(設置)

第1条 市の行政評価の客観性と透明性の向上を図るため、花巻市行政評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 市が実施した行政評価の結果について評価すること。
- (2) 行政評価の改善について市長に提言すること。
- (3) その他行政評価に関し意見を述べること。

(組織)

第3条 委員会は、委員18人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 公共的団体等から推薦された者
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 公募による者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度の翌年度末までとし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(部会)

第6条 委員会に部会を設ける。

2 部会に属すべき委員は、委員長が委員の意見を聴いて指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選とする。

4 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、あらかじめ部会長が指名する部会に属する委員がその職務を代理する。

(会議)

第7条 会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、総合政策部において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成23年7月26日から施行する。

(経過措置)

2 平成23年度において委嘱する委員の任期については、第3条第3項の規定に関わらず、委嘱の日から平成25年3月31日までとする。

附 則（平成26年3月28日告示第72号）
この告示は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成30年4月13日告示第229号）
（施行期日）

1 この告示は、平成30年4月13日から施行する。
（経過措置）

2 この告示の施行の際、現に花巻市行政評価委員会設置要綱の規定により、委員の委嘱を受けている者に係る任期は、なお従前の例による。

花巻市行政評価委員会委員名簿

任期：H30.9.11～H32.3.31

区 分	所属団体等	氏 名	部 会	備 考
(1)公共的団体等から推薦された者	花巻農業協同組合	高橋 勉	しごと部会	
	花巻商工会議所	八木 浩	しごと部会	
	社会福祉法人花巻市社会福祉協議会	高橋 照幸	暮らし部会	
	花巻工業クラブ	高橋 徳好	しごと部会	
	一般社団法人花巻観光協会	高橋 誠	しごと部会	
	花巻市PTA連合会	青木 明希	人づくり・地域づくり部会	
	花巻市食生活改善推進員協議会	吉田 幸子	暮らし部会	
	公益社団法人花巻青年会議所	上田 直輝	しごと部会	
	一般財団法人花巻市体育協会	久保田 廣美	人づくり・地域づくり部会	
	花巻市芸術協会	福盛田 弘	人づくり・地域づくり部会	
	花巻市民生委員児童委員協議会	小原 幸子	暮らし部会	
	花巻市交通安全母の会連合会	伊藤 蓉子	暮らし部会	
	花巻市地域婦人団体協議会	佐藤 洋子	人づくり・地域づくり部会	
(2)学識経験を有する者	学校法人富士大学経済学部	影山 一男	しごと部会	副委員長 部会長
	学校法人富士大学経済学部	鈴木 健	暮らし部会	委員長 部会長
	公立大学法人岩手県立大学総合政策学部	堀籠 義裕	人づくり・地域づくり部会	部会長
(3)公募による者	公募委員	清水 正明	暮らし部会	
	公募委員	曾我 紀子	人づくり・地域づくり部会	